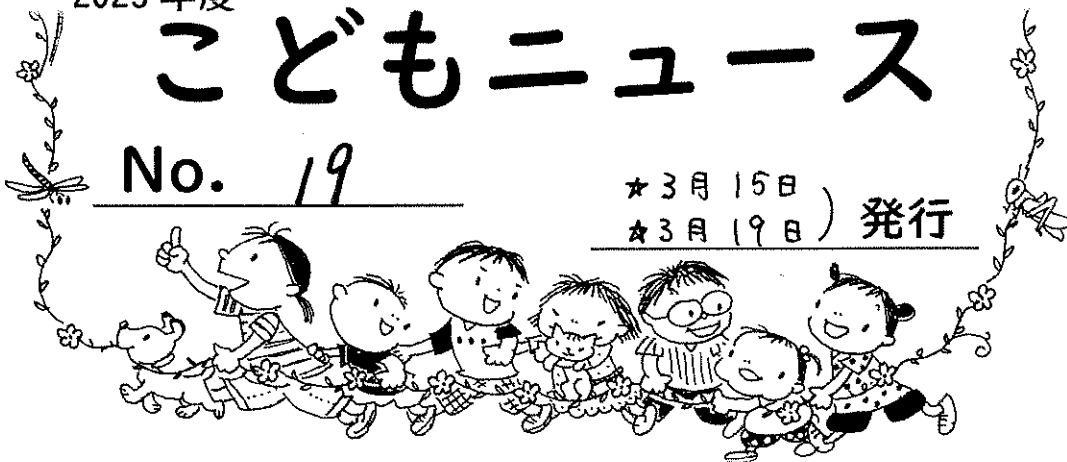


こどもニュース

No. 19

★3月15日
★3月19日) 発行



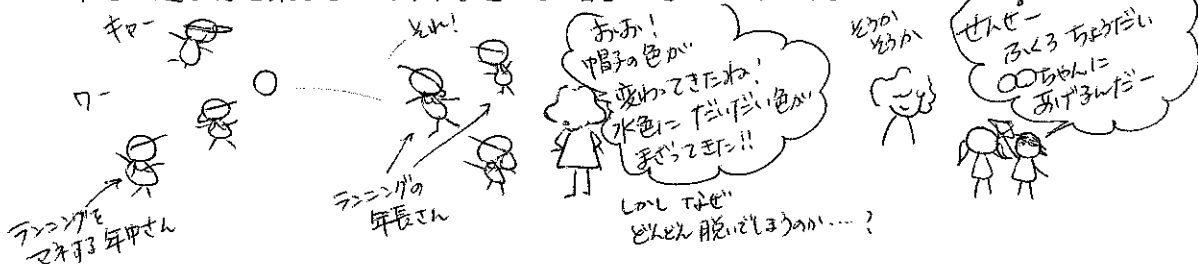
【あたらしい春にむかって】

三寒四温とはよく言ったもので、本当にその通りの季節を過ごしています。

朝晩の気温は低くても日差しの方強さは「春」そのもの。その気温の変化を子ども達は敏感に感じるのでしょうか。少し暖かくなると園庭は子ども達でいっぱいです。先日から続いた温かい日にはドッチボールをしている子ども達が次々と上着を脱いで半袖に…。(半袖からさらに脱いでいる人もいましたが…(笑))ドッチボールでは、お別れ遠足あたりから年中さんや年少さんの参加が増えました。大好きな年長さんに交じってボールを投げあっています。一緒に遊びながらも「次は自分の時代!!」とばかりに自信を持って楽しんでいて、すぐそこまで来ている「世代交代」を感じましたよ。

また園のあちこちで「これ〇〇ちゃんにあげるんだ、ひみつだよ」となにやら作っている姿もよく見ます。おうちで「もうすぐいなくなっちゃうんだよ、寂しいよ」と話しているとの声も聞きます。異年齢のクラス編成では年長さんは「あまり知らない大きい人」ではなく「自分のクラスのおにいちゃん、おねえちゃん」です。その身近な友だちの卒園は年下の子ども達にとってもリアルな現実なのです。毎日一緒に暮らした年長さんとのお別れは、寂しさも愛おしさも子ども達なりに実感があるのでしょうか。毎日「惜しむように遊ぶ」という感じで、この園ならではの「年長さんを送り出す」姿ともいえるのではないのでしょうか。

その時期が来たら芽をだす球根のように、子ども達は季節の変化をちゃんと感じて、ふさわしい遊び方を楽しむのですね。遊びも「春」を迎えたようです。



【年主題—「ともに紡ぎ出す—希望の中で—」を振り返って】

その年がどのような日々になるか、年度のはじめにわかっているわけではありませんが、あらためて私達が保育の礎としているキリスト教保育連盟の今年度の保育の主題「ともに紡ぎ出す—希望の中で—」を振り返ると、神さまのご計画の深さを感じます。5月に新型コロナウイルスが5類になり、ようやく皆で心置きなく集うことができるようになりました。様々な制約が外れていく中で、単純に以前の形に戻るだけではなく、希望を持ちながら「今の」子ども達にとって大事な事は何かを考え、日々の保育を紡ぎだせるようになったことは本当に大きな喜びでした。そのタイミングでの50周年の記念礼拝や記念コンサート、記念バザー、また歴代園長である加納眞知子先生、馬淵宣子先生の講演会の実施、本当に皆様に支えられた1年でした。私たちは、この金城学院幼稚園設立50年の歴史を再確認し、同時に次の新しい50年へと、希望を持ってバトンを渡す、まさに区切りの時に神様によって集められた、と感じられました。

【ご卒園おめでとうございます! そして一年間 ありがとうございます!】

卒園生の皆さん、そして保護者の皆様 ご卒園おめでとうございます!

新しい世界に飛び出す子ども達、その姿を見守るおうちの方々の上に、これからも神様の豊かなお守りがありますようにお祈り申し上げます。どんな時でも私たちは神様の家族、いつでも園にいらしてくださいね!またお会いできる日を楽しみにしています!

また、この一年間も園の保育にご理解ご協力をいただき、お支えくださり本当にありがとうございました。おうちの方々とともに「愛され、育ちあう」を実践できましたことに心から感謝申し上げます。

さて、子ども達の「今」や保育の「意図」をお伝えしてきた「こどもニュース」ですが、今年度最後の発行となりました。一年間ご愛読ありがとうございました。

こどもニュースはHPにも掲載されています。卒園する皆様も時々のぞいてくださいね!

見玉 芽 